

公益財団法人京都YMCA

2015 年度事業報告

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日



1、2015 年度事業報告

2、事業概要

3、データ編

公益財団法人京都YMCA

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2番地

2015 年度事業報告

2015 年度年間聖句

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

新約聖書 コリントの信徒への手紙一 12 章 26 節

2015 年度事業計画

京都YMCAの自然体験や、スポーツ活動、文化活動を通して、プログラムに参加する一人ひとりの全人的な成長を促し、健やかな心と体を育みながらたくましく成長をはかる活動を展開する。

プログラムを通していのちを守ることの大切さを学ぶとともに、生涯にわたって生き生きとした人生を歩み、社会の一員として貢献できるように指導する。

2015 年度事業計画

- ① メンバーシップバイデザインの取り組みを進め、プログラム参加者のYMCA活動への参画を促進する
- ② ユーススポーツ事業において水上安全キャンペーンを行いYMCAウォーターセーフティハンドブックを近隣の小学校に配布する
- ③ 病児及び発達障がい児の支援プログラムを充実させる
- ④ 共働き家庭やひとり親家庭の子育て支援として、保護者が帰宅するまでの時間を安全に過ごせる居場所を作り、大学生ボランティアを配置して正しい生活習慣を習得させるとともにグループ活動を行う。
- ⑤ 京都府南部地域での新規事業の取り組みについて研究する

こどもから大人まで全ての人がボランティアを通して地域社会ならびに国際社会に貢献することができるように、ボランティアを育成し、ボランティアの手による地域社会および国際社会への貢献事業を進める。

2015 年度事業計画

- ① ボランティアセミナーや啓発プログラムを通じてボランティアの拡大を行う。
- ② ユースボランティアグループを支援し、ユースボランティアの育成と拡大を図る。
- ③ 府民の参加するチャリティーイベントを行い公益活動の理解を深める。
- ④ グローバルな視野を持ちリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- ⑤ 全国のYMCAとの協力のもと東日本大震災復興支援事業を継続して実施する。
- ⑥ 公益活動のための寄附金拡大を図る。

2015 年度を振り返って

2015 年度の特徴としては、国際的な取り組みに数多く関わった年度であった。

創立 125 周年を機に関係を深めつつあるネパール YMC A、また中国の厦門 YMC C、そして従来から密接なつながりのある韓国（仁川 YMC A）台湾（台中 YMC A）など近隣の国々の YMC A との関係を通じて国際的なつながりの中で行われる取り組みが行われた。

また、障がいのある子どもや、共働き家庭の子どもを対象とした新たな子育て支援の取り組みも積極的に行われた。

子どもの水の事故を無くすための取り組みとして市内の小中学校への「水上安全ハンドブック」の配布や着衣水泳の指導等を行う水上安全キャンペーンの取り組みも昨年に引き続き行われた。

公 1 公 2 のそれぞれの事業において、その活動を通じてこの年も多くの青年、成人ボランティアが関わり育った。以下に 2015 年度の特徴的事柄を記す。

〔公 1 こどもから大人までの健全な心身の発達を促進するウエルネス事業〕

日常プログラムの登録者は 1647 名と前年同時期と比較して微増であった。

内訳をみると青少年が 1292 名から 1320 名と約 40 名の増となった。中でもユーススポーツ事業が 991 名から 1052 名と 60 名近く増えたことが要因となっている。ただ、野外活動は、チーム数が減ったこともあり 42 名の人数減となっている。

成人ウエルネス事業参加者は、前年同時期の 355 名から 327 名と減少の傾向にある。また、講習会の参加者は、夏期プログラムでは夏期キャンプが前年度の 510 名から 479 名と大きく減少した。また夏期講習会も昨年より 20 名減少している。

結果、夏期プログラム全体で、昨年より 50 人の減少となった。近年夏期のプログラム参加者が減少してきている要因の一つとしては、子どもの夏休みの期間と大学生の試験が 8 月初旬まで続いておりプログラム可能な期間が限られた中で実施しなければならないことも影響している。

一方、冬期・春期プログラムでは、前年 1092 名から 735 名と大幅な減少であった。特にウインターキャンプがスキーバス事故のニュースの影響もあり昨年の 562 名から 291 名となり春キャンプも 186 名から 91 名といずれも半減に近い減少となった。春講習は若干の増ではあるが全体として 400 名近くとなり昨年より 523 名の減少となった。

今年度から青少年育成のプログラムとして近隣の共働き家庭や、ひとり親家庭の子どもたちを対象とした放課後プログラムとしてアフタースクールを開始した。初年度の参加者は 5 名と少ないが地域のニーズは高いと思われるので今後地域に周知されることで拡大する可能性が望まれる。

講習会として高齢者の筋力トレーニングのプログラムも昨年に引き続き継続しており、毎回多くの高齢者が参加している。

今年も子どもたちを水の事故から守るためのキャンペーンを実施し6月28日には、「命を守る講習会」として一般の方を対象に無料で着衣水泳講習会を行い44名が参加した。また水上安全ハンドブックを27の小学校に8394部を配布し、市内5校の小学校での着衣水泳の指導を行い、小学校教員を対象としたプール安全講習（5月13日）も実施した。

国際協力街頭募金を今年も11月1日に行い、日常プログラムに参加する多くの子供や京都YMCAの会員が京都市内9か所と舞鶴市内で街頭募金を行った。

昨年に引き続き今年もユーススポーツ大会を11月7日、8日に福井県おおい町総合運動公園で開催し、試合だけでなく参加チーム同士の交流も行われた。

全国のYMCAと共同でいじめ撲滅のためのキャンペーンを行い、2月第4水曜日（2月24日）の「ピンクシャツデー」を中心にいじめをなくすための呼びかけを行った。2月27日にはピンクシャツデー関連イベントとして発達障がい児理解セミナーを開催し、翌28日（土）には京都教育大学の桶谷守教授を講師に「今一度いじめを考える」講演会を開催した。

〔公2 ボランティアによる地域社会及び国際社会への貢献活動〕

4月25日に発生したマグニチュード7.8の地震は、土レンガ造りの建物の多いネパールの町や村に大きな被害を出し、8000名近くの死者がでた。

京都YMCA125周年を機にネパールのYMCAが行う身寄りのない子どもたちを預かり育てる児童養護事業を支援することを決めていた京都YMCAでは、ネパールYMCAに連絡を取り、YMCAの無事を確認するとともにネパール地震のための緊急支援募金を行い、集まった募金を被災者支援活動を行うネパールYMCAに送った。また8月には神崎清一総主事と国際協力担当スタッフをネパールに派遣し、現地視察と今後の支援について協議を行った。

毎年2月に開催していた国際協力募金を集めるためのバザーをネパール支援のためのチャリティーバザーとし、多くのボランティアの協力で実施した。

8月に中国の厦門で行われたインターナショナルワークキャンプに京都YMCAからユースボランティア2名とユーススタッフを派遣し、中国、台湾、韓国の青年と共にプログラムを実施した。

10月16日から18日までの3日間、韓国の仁川YMCAを会場に京都YMCAが協力関係を結んでいる台湾の台中YMCAとの3YMCA合同会議が開催され京都YMCAからも役員及びスタッフ9名が参加した。

今年の社会セミナーは、「アジアの若者が語る夢と出会い」というテーマで11月13日に開催した。日本に留学しているアジア各国の青年と、日本の青年がそれぞれの

国の文化や考え方の違いや日本での生活などについてパネルディスカッション形式で話し合う機会を持ち、約 50 名の一般参加者があった。

12 月 12 日には、「ワークショップ—みんなで考えよう日本における難民受け入れ」が開催され参加した大学生や高校生が、ワークショップ形式で難民問題について共に考える機会を持った。同じく 12 月には中国の南京で開催された日中韓 YMC A 平和フォーラムに京都から神崎総主事の他に職員と京都大学 YMC A のユースが参加し、平和について考える機会を持った。

新しい取り組みとして 1 月 22 日から 3 回シリーズで「平和のための開発教育セミナー」が開催され、ゲームや教材を使い国や経済の違いによる様々な国際的な問題について考える機会を持ち各回 25 名～30 名が集まり学ぶ機会を持った。

2 月には、グローバルコミュニティスタディプログラムが行われ、今年も台中 YMC A に国際ボランティア 1 名と職員を派遣した。

次にボランティアの養成及びボランティアの働きに関しては、「がん患者さんの会」は毎月定例的に継続して行われている。

ボランティアの養成講座として 8 月には、小学生を対象とした、「こどものための視覚障がい者介助講習会」を開催した。

10 月 24 日には、朗読ボランティアグループを対象とした録音に用いる機器の取り扱いについて学ぶ「音訳ボランティアのためのデジタル録音講習会」を開催し、視覚障がい者のための朗読奉仕を行っているボランティアグループの皆さんに集まってもらい日頃の機器の取り扱いについて疑問点を専門家から聴く機会を設けた。

2 月 20 日には、「普通救急救命」の講習会を開催し、参加者 15 名が救急時の対処法について学ぶ機会を持った。

登録ボランティアグループの活動としては、朗読ボランティアグループ長岡こおろぎが 5 月、11 月にリスナーと交流する「ふれあいの会」を近江八幡（5 月）、丹波篠山（11 月）で行った。YMC A こおろぎは、「ふれあい広場」30 回を記念して 11 月 3 日にリスナーおよび関係者を招いて記念感謝会を持った。聴覚障がい者プログラム研究会マイ・マイは 3 月 20 日にマイ・マイフォーラム「聴覚障がい学生の就職」を開催し、聴覚障がいのある子どもたちが直面する就職の問題について考える機会を持ち当日 17 名が集まった。

またボランティアビューローの登録ボランティアグループとして新たに発達障がい児とその親を対象としたプログラムを行う「えんじえるのつばさ」が加わった。

今年の YMC A ・ YWC A 合同企画の祈祷週プログラムは、11 月 22 日に「知っていますか！社会的養護 18 歳の壁」というテーマで、養護施設を出た後の青年の進路の問題について考える機会を持ち大阪成蹊短期大学准教授の阪野学さんの講演と京都 YWC A の山本総幹事より自立援助ホームの状況についての報告があった。参加者 49 名。

東日本大震災の復興支援プログラムとして 7 月 21 日～24 日の日程で福島県からの親子 12 名を招いてリフレッシュファミリーキャンプを行った。